

多文化キッズコーディネーターの配置および多文化キッズサロンの開設について

1 多文化キッズコーディネーターの配置について

(1) 目的

外国籍世帯の増加に伴い、日本語を母語としない子どもとその保護者による様々な相談事が増加している。

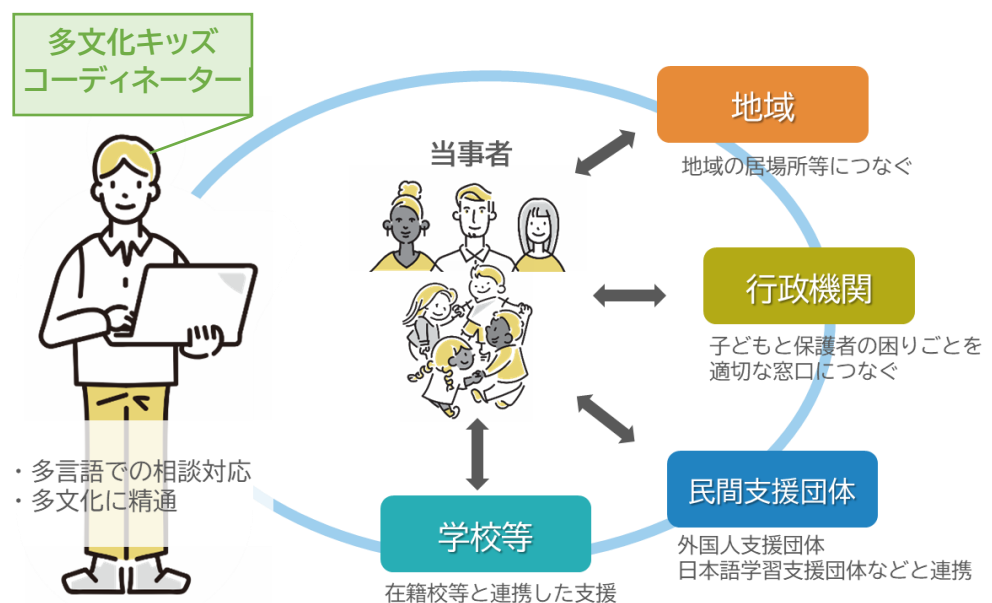
このような家庭に、必要な情報や支援が行き届くよう、地域の関係機関等と連携して支援を行う多文化キッズコーディネーターを配置する。

(2) 内容

日本語を母語としない子どもとその保護者からの相談を直接受けるほか、幼稚園、保育園、小中学校等の子どもの関係する機関を巡回し、要支援者の状況を把握する。

外国人支援団体や日本語学習支援団体と連携しながら、日本語教室を終えた子どものフォローなど、地域や関係機関と一体となり、悩みに寄り添いながら適切な支援につなげる。

<スキーム図>



(3) 対象

主に区内に居住・通学する、日本語を母語としない子どもとその保護者

(4) 実施体制

福祉的支援、教育的支援を担う者、計2名以上の体制で支援を行う。

① 受託事業者

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

連絡先：080-7392-1425（事務局 鈴木）

メール：toshima.multicultural.kids@sva.or.jp

電話受付：平日 10 時～17 時

② 多文化キッズコーディネーター

■福祉的支援（生活環境、経済事由、孤立等を背景に困難を抱える子ども・家庭を支援）

・朴 梨沙（ぱくりさ）

■教育的支援（日本語力、基礎学力、教育環境等に課題を抱える子どもを支援）

・伊藤 恵美子（いとう えみこ） ※令和8年3月31日まで

・久保田 芳恵（くぼた よしえ）

・堀 富士夫（ほり ふじお） ※令和8年3月31日まで

・松浦 和代（まつうら かずよ） ※令和8年3月31日まで

(5) 業務内容（多文化キッズコーディネーターの役割）

① 学校や進路の悩み、生活に寄り添い、適切な部門へつなげる。

② 親子と学校、行政機関、NPO 等の間に入り、調整を行う。

③ 子どもと日常的に接触できる場所を巡回し、子どもとその保護者の状況、困りごとを把握。

④ 地域のリソースと連携して、適切な支援や情報につなげる。

※長期的に伴走支援する「ケースワーカー」とは性質が異なる。

※関係機関に通訳を派遣するものではない。

(6) 今後のスケジュール

令和8年1月	コーディネーターの配置、支援開始 小中学校訪問（挨拶、状況確認等）
2月	公立保育園等訪問（挨拶、状況確認等）
3月中旬	私立保育園等訪問（挨拶、状況確認等）

2 多文化キッズサロンの開設について

(1) 目的

日本語を母語としない子どもとその保護者の孤立を防ぎ、地域とつながりを持ちながら、子どもも保護者も自分らしく暮らしていける環境を整備する。

(2) 内容

日本語を母語としない子供が安心して立ち寄ることができる地域の居場所として「多文化キッズサロン」を設置し、日本語学習や教科学習、悩みや困りごとに寄り添う相談、同じ境遇の仲間や地域との交流を実現することで、多くの人とつながりながら、自分らしく暮らしていけるよう、地域で一体的な支援を行う。

(3) 対象

主に区内に居住・通学する、日本語を母語としない子どもとその保護者

(4) 所在地

池袋本町1-6-12（駒込福祉作業所分室跡） ※令和8年度暫定設置

(5) 事業概要（予定）

① 学習支援

- ・日本での生活および学校生活に必要となる日本語基盤の育成
（1.5時間、週1回程度、小中学生対象）
- ・各教科における宿題サポート
（1.5時間、週1回程度、小学生対象）

② 相談支援

- ・多文化キッズサロンを拠点に、多文化キッズコーディネーターが個別相談に応じ、情報提供や各種関係機関との連絡調整を行う。

③ 交流事業

- ・宿題サポートの前後の時間を活用し、子どもたち同士、保護者同士が気軽に交流できる時間を設ける。（週1回程度）
- ・地域住民との交流イベントの開催（年1回程度）

(6) 今後のスケジュール

令和8年4月	サロンの開設準備
5月	サロンの開設 多文化キッズコーディネーター配置